

くまもの
文化財

県指定天然記念物

久連子鶏

八代郡泉村久連子

左：久連子鶏(雄)
(かくれているのは全身黒色の雌)

下：古代踊りに使用される笠と太鼓



久連子鶏は、平家の落人伝説で知られている五家荘の久連子に残る地鶏の一種で、雄は三枚冠の頭をもち、頸羽は、いわゆる銀笹で、よく開張し、水平線上約四〇度の角度を保ち、幅広く、長く伸び(三五〜七〇センチ)地上に達する。

この尾羽は、国選択無形文化財である「古代踊り」の笠の飾りに使用されている。

鳴き声は、コケッコッコ(約三秒)と美しく、一番どりは三時、二番どりは五時というふうにより正確に「時」を告げる。

普通一〇数年は生き、飛翔力も強い。

近年、近親交配や伝染病等によって、又早種の絶滅が心配されていたが、地元民の文化財としての久連子鶏に対する認識の高まりにより、本年五月保存会が結成され、県養鶏試験場、肥後チャボ保存会の協力による研修会等も実施され、久連子鶏の保存に大きな期待が寄せられている。

なお、県内に生息する動物の中で、阿蘇郡蘇陽町、阿蘇町、小国町及び菊池川水源等で発見されているオオサンショウウオ、球磨郡の白髪岳、市房山方面で発見されているカモシカは、国の特別天然記念物に、阿蘇郡の南郷谷に生息していると思われるイヌワシ、球磨郡市房山麓にのみ生息するゴイシツバメシジミ(キョウウの一種)及び八代郡泉村や市房山等に生息するヤマネは、国の天然記念物に指定されている。

県指定天然記念物(動物)としては、牛深地方のサンリモドキ、県内一帯にみられる美しいベッコウサンショウウオ及び久連子鶏がある。

明日の熊本 提言 観光産業の振興をめざして



日本観光旅館連盟 熊本支部長

八木 小一郎

価値観の逆転も、進歩のための原動力となる場合も多いが、精神より物質文明志向に惑わされ、心のゆとりを欠き、自分の住んでいる環境にさえ、無関心である人々が多いように思われる。父祖伝来の郷土熊本を歴史、文化的資源と、私達にうけるおいを与えてくれる緑。私達、県民共有の財産が汚れ、きずつき、無くなるうとしていっている。

国の環境保全法に国民の責務として「国民は、自然環境が適正に保全されるよう自ら務めるとともに、国及び地方公共団体が実施する自然環境の保全に関する施策に協力しなければならぬ」と規定されている。

県でも自然環境保全指導員設置要項を定め、県下の市町村長の推せんにより、知事任命の指導員三十名が配置され「高山植物、岩石の保全から、環境衛生の維持と美化に留意し、特に紙くず、空きん、空びん、汚物等の処理を適切にするよう指導することが出来る。」とあるが、現実はどうであろうか。

八〇年代の衣、食、住たりて、旅にでようじゃないが、国民皆旅行時代である。本県においても、観光産業振興を県政の重点施策としてとりあげ、その波及効果、将来にむけての雇用の拡大等を図られるようであり、県民にとって、またとない機会であろう。私達県民は共に力をあわせ、ふるさとの緑を守り育て、住みよい生活環境をつくり、本県を訪れる観光客にとっても、親しみと、誇りのあるものにしたいたいものである。しばしばいわれているところであるが、国立公園をはじめ、県立公園等自然景観をもち、更には文化遺産、名勝旧跡を数多くもちながら、かならずしも観光的にはいかされてないといわれている。

そこで次のいくつかを提言したい。

・屋外広告物条例の見直し

この条例は制定されて久しくなるが、必要な規制を行い、もって美観風致を維持し、及び公衆に対する危害を防止することを目的としているが、なかなか美観風致上は特に守られていないようである。職種別の色分けとか、看板類の大きさの統一化あるいは禁止区域の拡大等出来ないものであろうか。

・交通緩和問題

私は、車の運転が出来ないので、先日県職員の案内で朝もやの江津湖を見に行く機会を得た。街中になくなったすんだ空気を胸いっぱい息したいと思っていたが、湖畔のせまい二車線の道路に車の洪水、排気ガスに思わず窓をしめた。行きかう車の殆んどが一人乗車である。これはなにも江津湖畔に限ったことではない。市内中心部の混雑は特にひどい、市郊外(立田、北部、富合、六嘉)あたり

に公営大駐車場を設け、市中心部へのマイカ乗り入れを規制し、省エネルギーと交通混雑緩和、市街地空気汚染防止等問題点解決に協力は得られないものであろうか。

・都市河川の有効利用

石油と共に水の有限説が出ているが、水前寺公園の枯渇、地下水位の低下など問題が多い。都市部を貫流する白川に一定水位を保つ堰を設け自動調節出来るようなものは出来ないものか、隅田川のように夏は納涼花火大会、ボート遊びに、生活用水確保に、河川敷には桜並木、肥後選花を植え、市民の憩い場としてはいかがだろうか。

・むすび

観光業界は波及効果の高いものであり、料飲税も約四十四億円納入している。又、売上げの九九％は、従業員の給料、原材料費(米、調味料、魚、肉、野菜等)として、県産品愛用と併せて地域経済に貢献している。

私共、業界へ寄せられる施設充実の声を聞くにつれ、社会的公器としての職業意識をもち、採算面からのみの施設の充実ではなく、地域住民の一人としての心豊かな経営者として、充実を図ることを願う。道は遠いが、我業界をして熊本の一面を代表する業界へ成長させたいと念願している。